
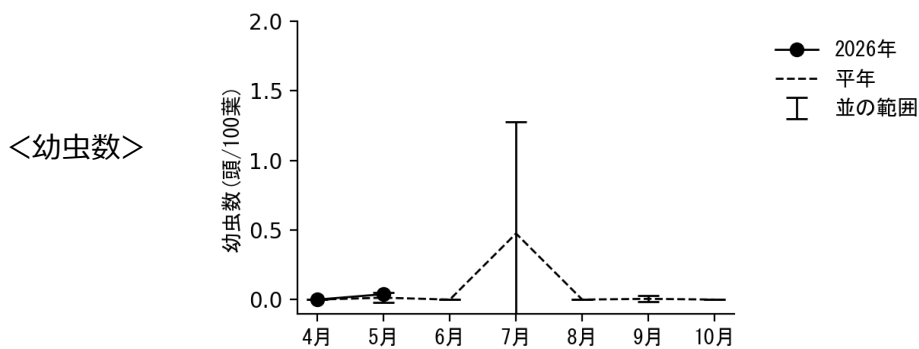
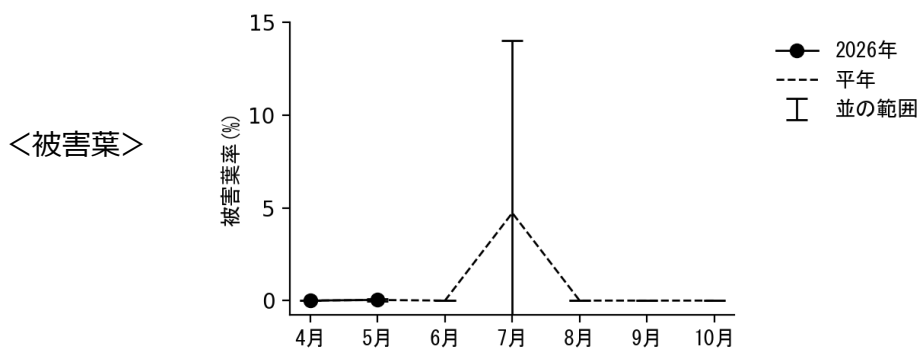


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① エビガラスズメ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	

予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)
-------	---------------

調査結果


今期と平年の発生推移



・発生ほ場率12.5% (平年 : 6.2%)

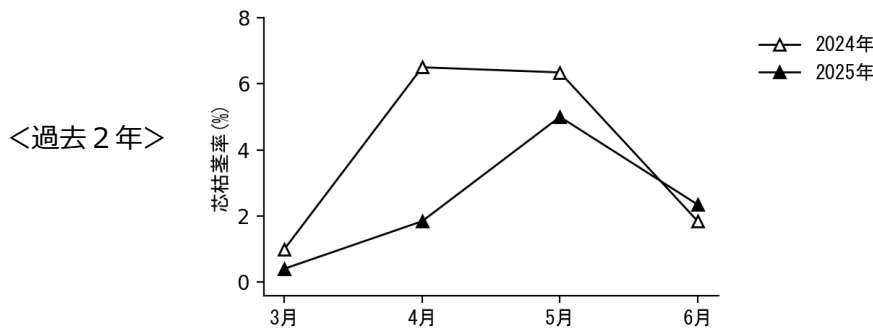
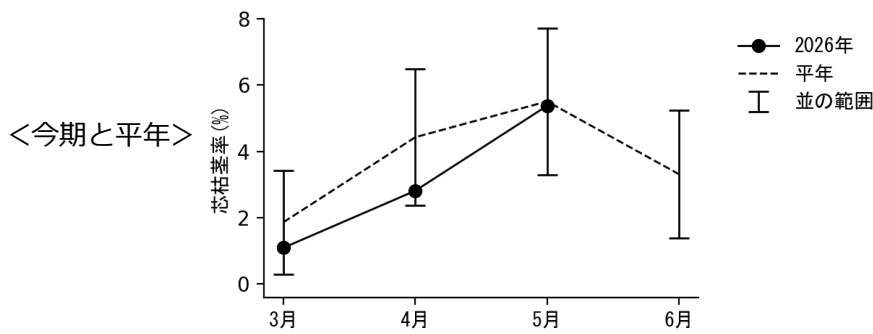
防除のポイント

- ・若齢幼虫の早期発見に努め、薬剤防除を行う。

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↘		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ
- ・発生ほ場率100% (平年：95.7%)

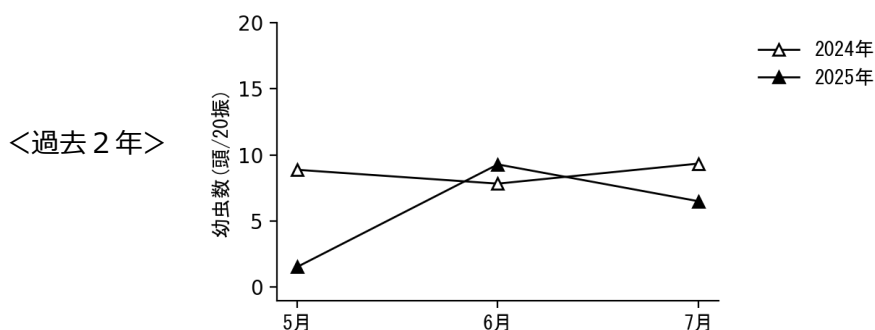
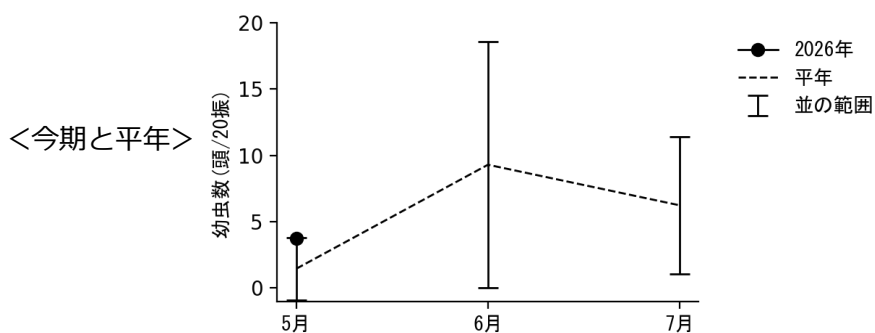
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② バッタ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


幼虫数の推移



- ・発生種：台湾ツチイナゴ、トノサマバッタ
- ・発生ほ場率87.5% (平年：44.0%)
- ・伊平屋島で多発

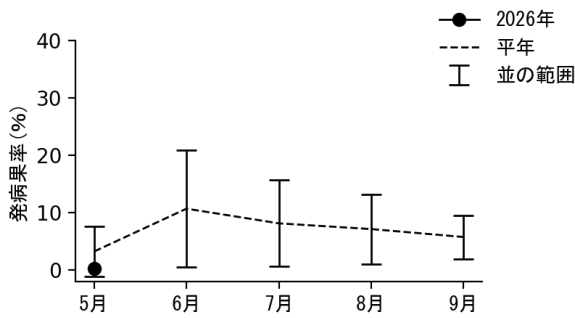
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

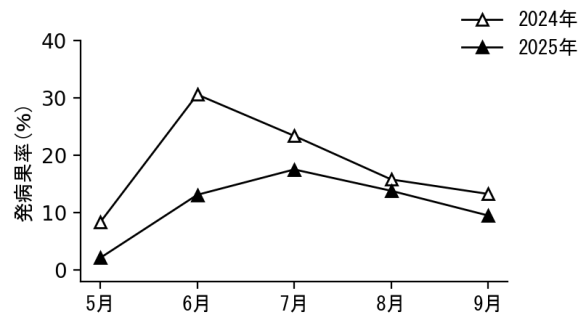
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島	
病害虫名	① そうか病				
調査結果	5月の発生量（平年比）	並			
予報	5月からの増減傾向	↗			
	6月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）			

調査結果

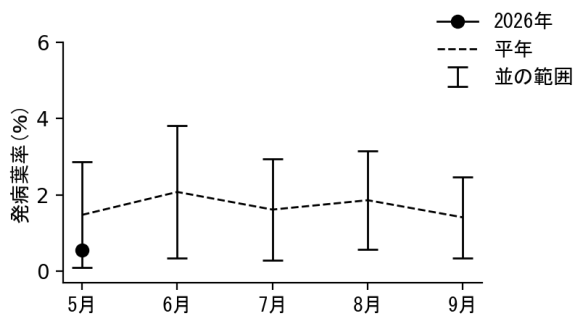
発病果率の推移（今期と平年）



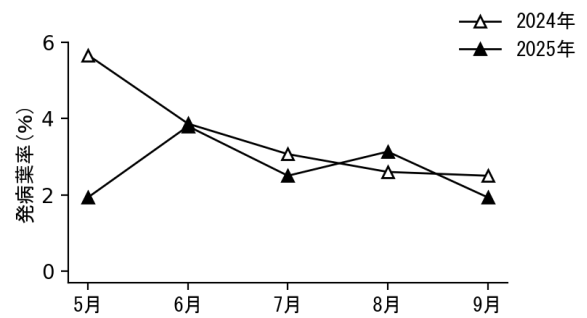
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）




- ・ 果実の発病度0.0（平年1.5）
- ・ 発生ほ場率33.3%（平年：37.5%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

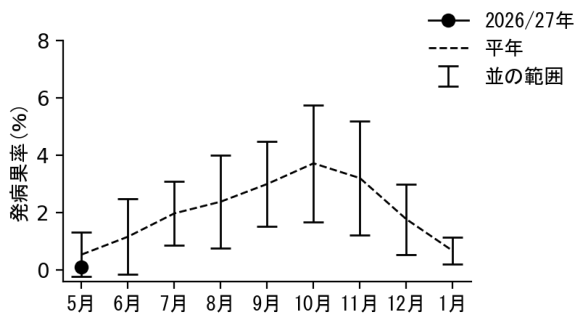
被害果→



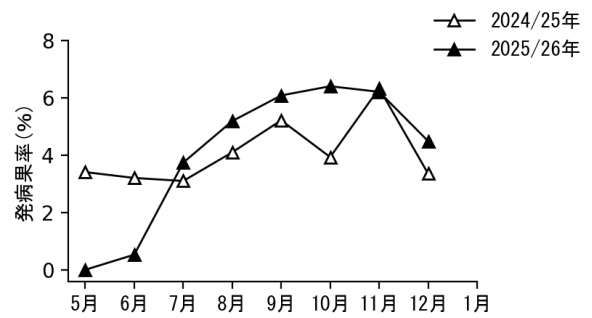
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	5月の発生量 (平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	↗	
		6月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

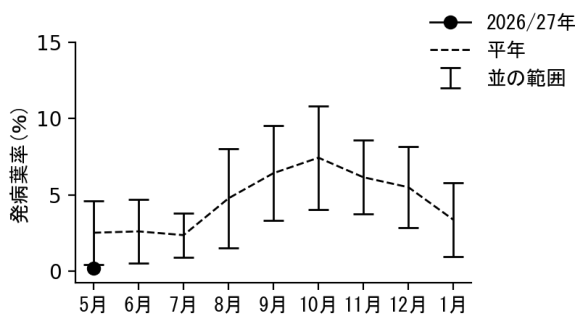
発病果率の推移 (今期と平年)



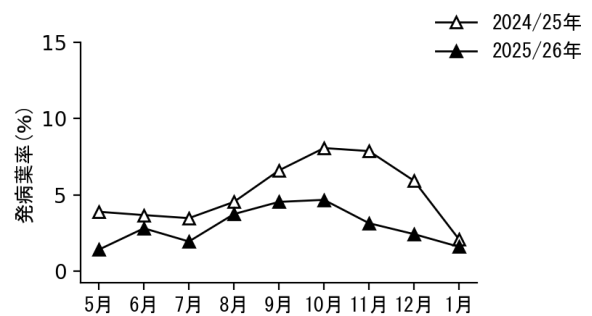
発病果率の推移 (過去2年)



発病葉率の推移 (今期と平年)



発病葉率の推移 (過去2年)




- ・ 果実の発病度0.0 (平年0.1)
- ・ 発生ほ場率25.0% (平年 : 17.6%)

防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となる。
- ・ 台風による葉や枝の傷口 (風傷)、ミカンハモグリガの食害痕から本病が侵入する。
- ・ 台風前後に薬剤による予防散布およびミカンハモグリガの防除を徹底する。

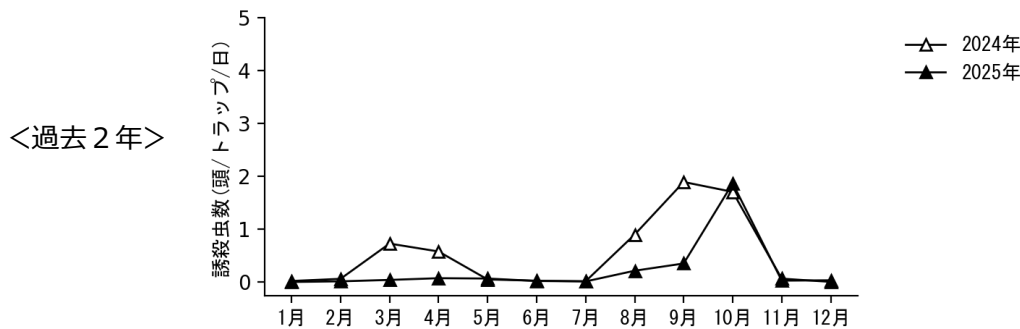
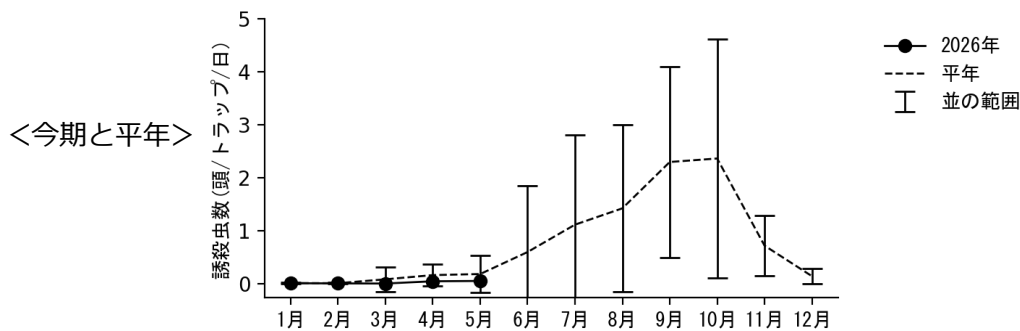
被害葉→



作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率75.0% (平年 : 65.0%)、一部ほ場で多発 (防除員報告より)。

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

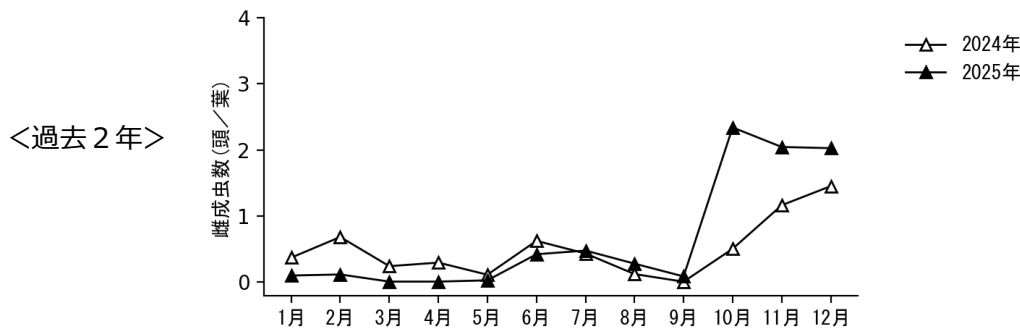
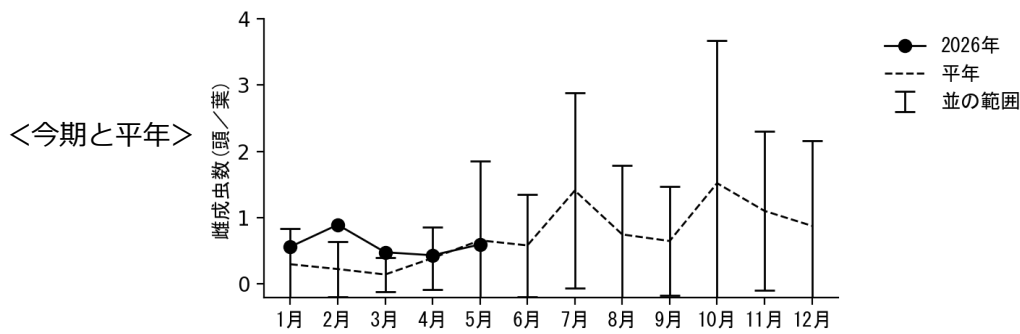


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
		6 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率25.0% (平年：53.1%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

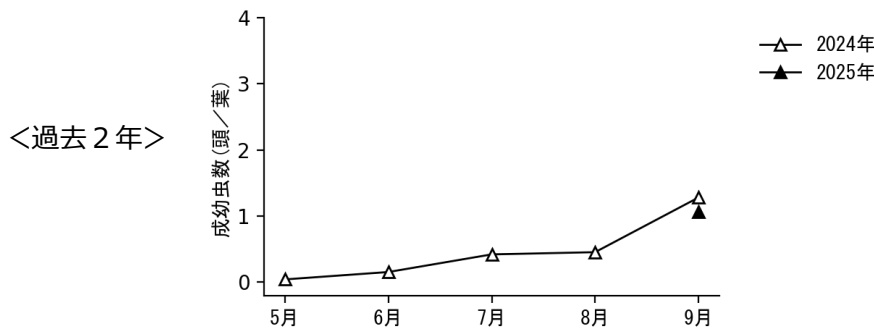
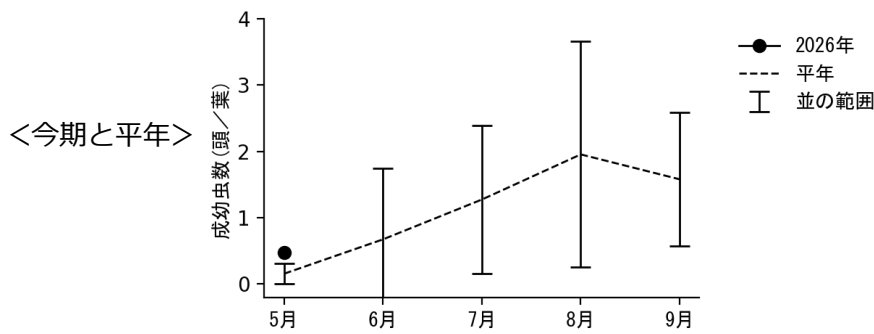


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		 成虫	
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成幼虫数の推移

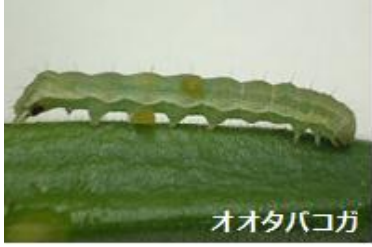


- ・発生ほ場率100% (平年 : 55.3%)
- ・一部ほ場で多発生

防除のポイント

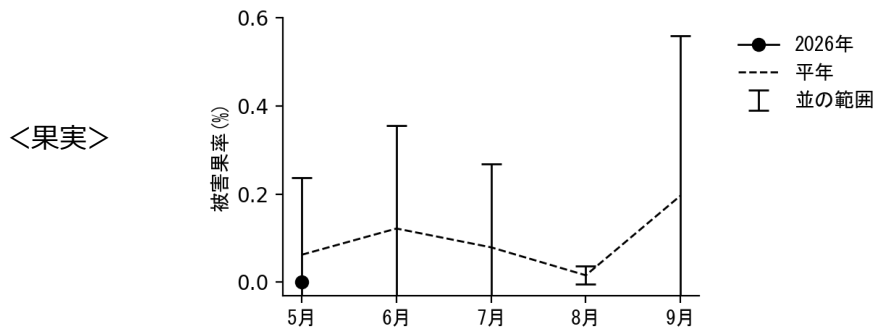
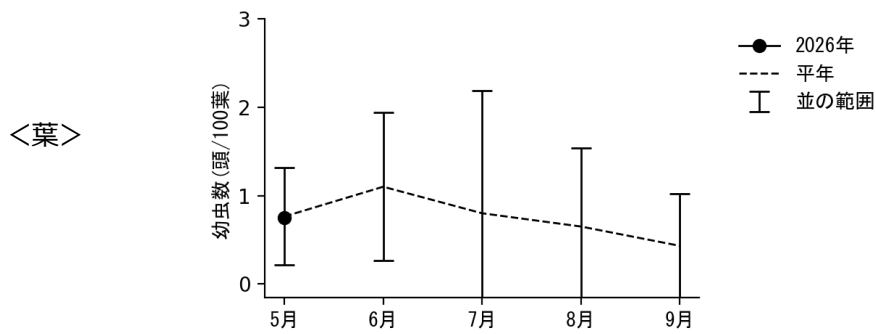
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		 <p>オオタバコガ</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



- ・発生種 :
- ・発生ほ場率25.0% (平年 : 44.7%)

防除のポイント

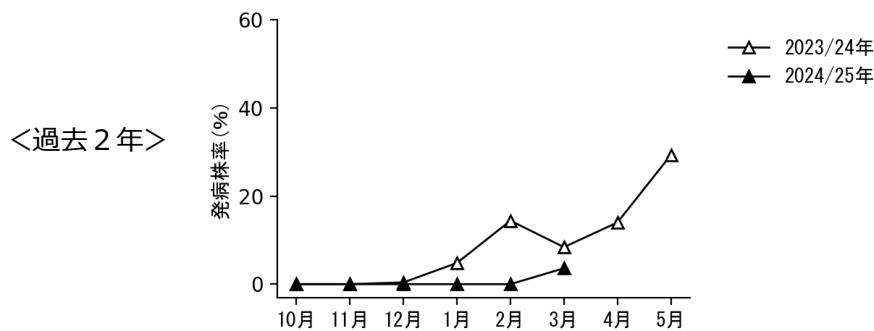
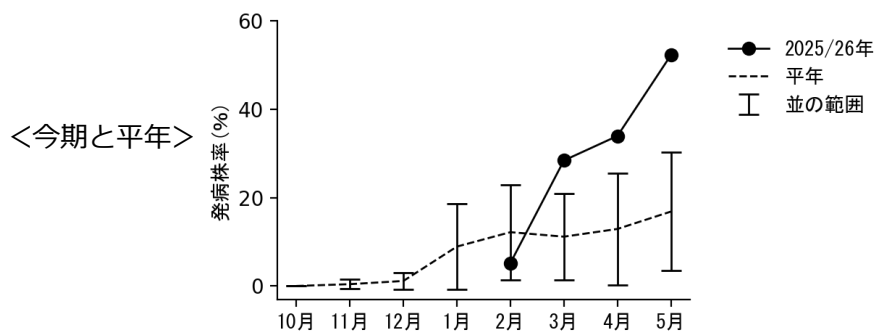
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率100% (平年 : 58.1%)

防除のポイント

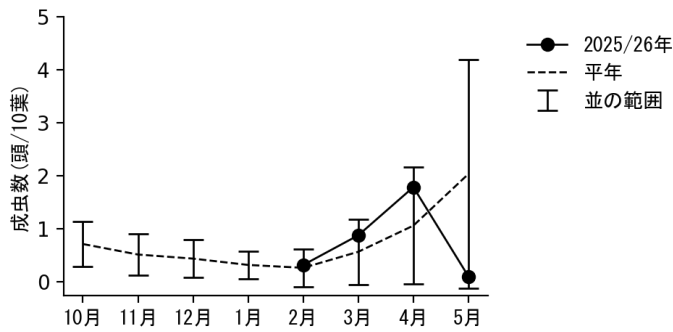
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

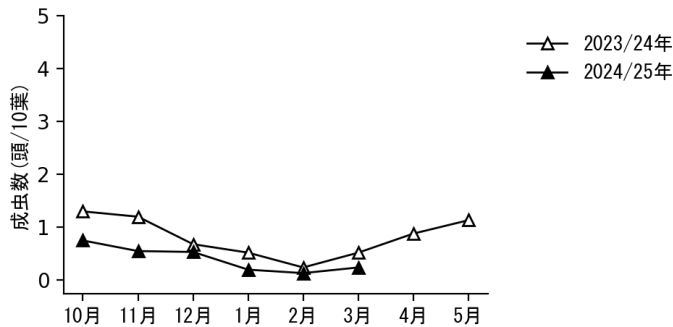
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>




・発生施設率40.0% (平年 : 60.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

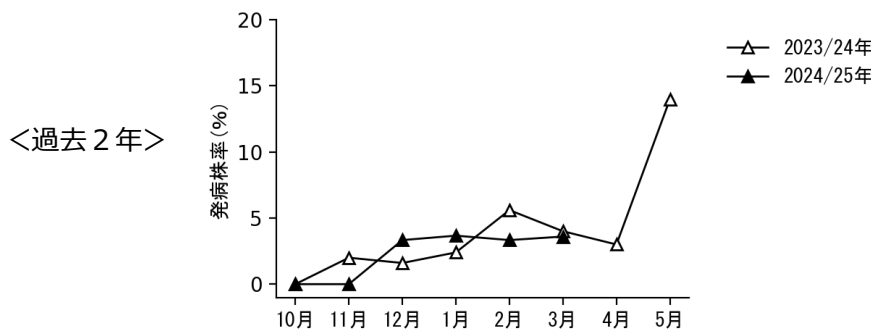
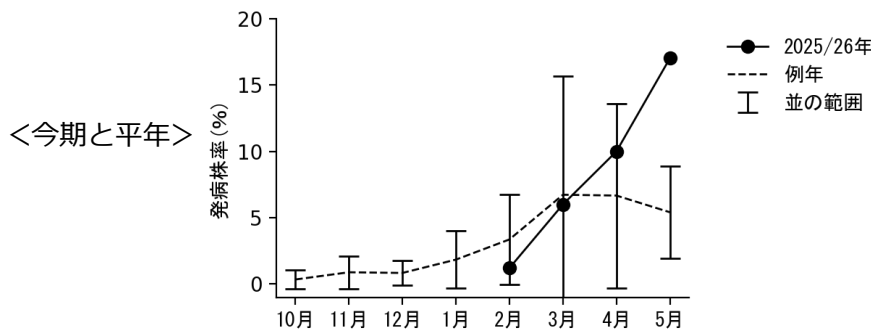


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	黄化葉巻病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率100% (例年：75.0%) * 一部施設で多発

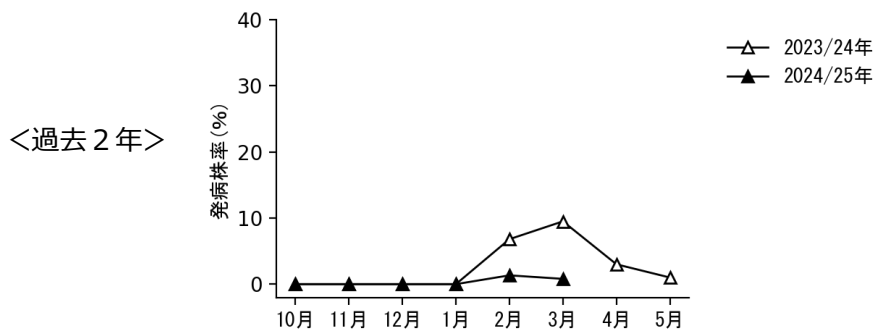
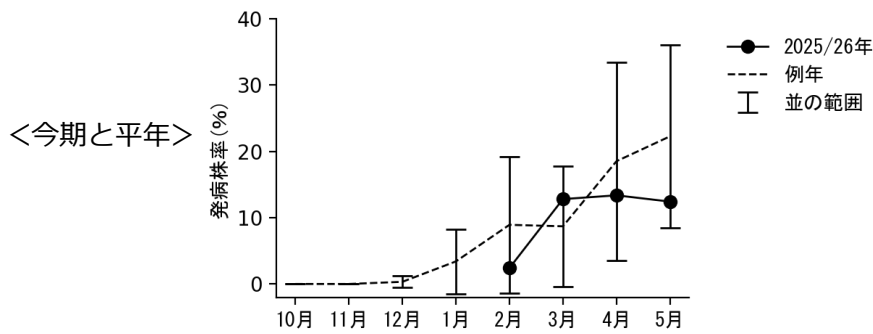
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。
- ・ムラサキカタバミやノゲシ等の雑草は本病に感染し、次期作の伝染源となるため除去する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率100% (例年：60.0%)

防除のポイント

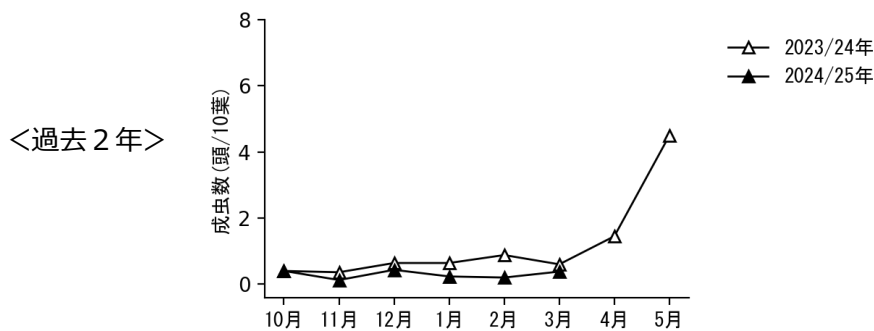
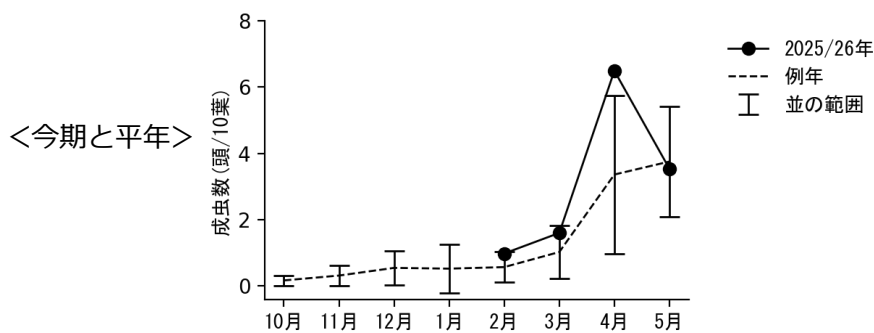
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量(平年比)	—	
予報の根拠			



調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (例年：100%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

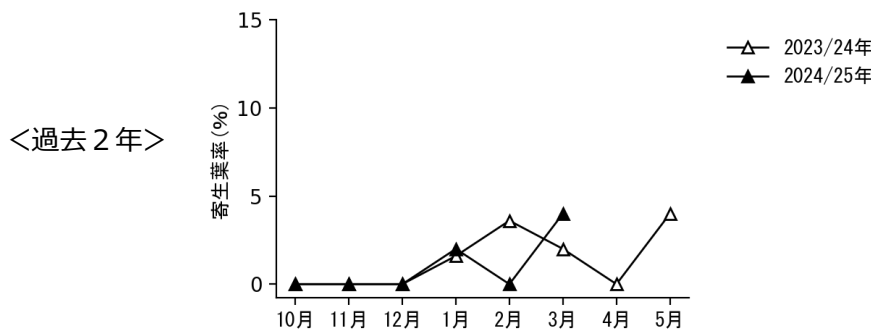
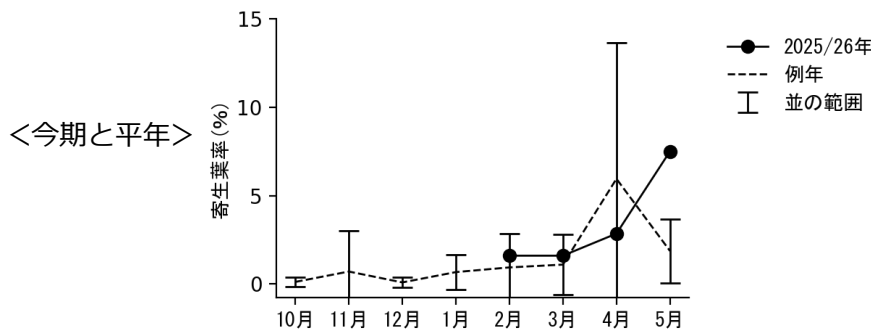


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	5月の発生量(平年比)	やや多	
予報	5月からの増減傾向	—	
		6月の発生量(平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率50.0% (例年：33.3%) * 一部施設で多発

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)